

家族の手足口病体験記

幼稚園児から家族全員に広がった手足口病とレメディによる対処

<概要>

今回、幼稚園での流行をきっかけに、家族で手足口病を体験した経過をまとめます。

息子（4歳）のケース

- 幼稚園で手足口病が流行するなか、息子（4歳）が発症。
- 最初に手のひらに発疹が現れ、翌日には足にも発疹、さらに口の中にも口内炎ができた。

母親と息子（0歳）のケース

- 息子（4歳）が回復し始めたタイミングで、母親と息子（0歳）がほぼ同時に発症。

<レメディ選択>

- 息子（4歳）：Ars. Bor. と Puls. のレメディで対処。
- 息子（0歳）：感染を予想して、予防的に Ars. Bor. と Puls. を水に溶かしたレメディを服用。
- 母：発症後は Ars. Bor. を続けて服用。

<選択の根拠>

Ars. ・ ・ マテリアメディカを参考に。また、「お金の心配・不安」という特徴から精神面でヒットしたこと。

Bor. ・ ・ マテリアメディカを参考（口内炎などの症状に効果）

Puls. 子どものかかる症状ナンバーワンのレメディなので。

<経過>

- 息子（4歳）：発熱はなく、発疹のみで軽症の経過。
- 息子（0歳）：熱は出ず、手足にうっすらと発疹が見られる程度で症状はごく軽かった。
- 母：手足に発疹のみ。同時期に金銭面の不安が強くなり、「育休をやめて働いた方がいいのでは」と悩む。Ars. のレメディに「お金の不安に対応する特性」があることを思い出し、Ars200c を服用して気持ちを落ち着ける。

<まとめ>

家族全員が軽症で済み、特に熱が出なかったのが共通していました。発症のタイミングや症状の現れ方はそれぞれ異なりましたが、早めの予防や適切なレメディの利用によって大きなトラブルなく乗り越えることができました。特に心身のケアとして、レメディが心強いサポートとなった体験でした。